

教皇フランシスコと共に(慈しみの年へ！)

イズコ神父

今年の9月の1日に教皇フランシスコは特別な年を知らせる手紙を書きました。その特別な年は2015年の12月8日から始まり、来年の11月20日に終わる予定です。「慈しみの年」と言われていますが、私たちにとって何を意味する年でしょうか。何を与えてくれるのでしょうか。

何回も教皇様は、私たちに神の愛を信じ、その慈しみ、そのあわれみ、その優しい心に信頼して、それに答えるよう招いて説教でも述べておられます。先月にも教皇様がキューバ行かれたとき「慈しみの巡礼者」として自己紹介をしておられました。その国への教皇様のモットーはその通りでした。そして彼はキューバにいるキリスト信者達に赦しと憐れみの内に生きるように励まし、全ての人にその慈しみを証するように強く招かれました。

「全ての人に」即ち同じ信仰を持ってずっと前から共同体をつくる人や、最近その共同体に入った方や、まだ入っていない人、あるいは全然入ることにならない人に対しても。その時教皇様は「慈しみの年」を祝うように呼びかけて、次のように書いておられます「主の慈しみはどんな罪よりも大きく、どんな人でも許して下さる神の愛に限界をつけることはだれも出来ません、」と。

その時だけではなく、教皇様は度々、公に人に話すとき、そのようなメッセージを繰り返して伝えていています。それ故、批判する人も、反対する人も現れましたが、キューバの人にも話されたとおり「神の民は道を歩きながら歌を歌い、賛美をしています。そして、たとえ怪我をしていても、自分の腕を挙げて天国に向かって、希望を持って、自分に与えられた素晴らしい使命を思います。」他に、人間の偉大な使命を色々見ることも出来ますが隣の兄弟から離れさせるような行いならば、何の役に立つでしょうか。その行いを捨てて、兄弟を大事にすることが第一ではないでしょうか。

このように「慈しみ」という目から全てを見て、私たちの世界の多くの問題、私たちの家族や周りの人の多くの苦しみを見るように教皇フランシスコは私たちを励ましています。

「素直な心で赦しの秘蹟に近づく人には赦しの恵を断ってはなりません。」と教皇フランシスコは書いておられますし、それは信じる人の全てに、たとえ墮胎の罪を行った人にも、当てはまると教えておられます。そして、前の9月の6日には、聖ペトロ広場に集まった群衆に次のように話されて、神の慈しみの証人になるように励まされました。「最近、何十万人もの人が戦争や飢饉から離れて、命を守る為に逃げる人々の悲劇に対して、イエス様の言葉を思い出しています。(小さな人、捨てられた人の隣人になりなさい、)と。その福音の言葉に導かれています。具体的に、どのように彼らに希望を与えたらいいでしょうか。頑張って、我慢しなさい！と言う答えだけでは足りません。キリスト教の愛、信仰、希望

は働くべきものです。腕を組んで、あきらめることはいけません。だから、この「慈しみの年」が近づいてきた今、全ての小教区、全てのキリスト教共同体、修道会にお願いしたいと思います。その兄弟姉妹を受け入れ、助けて下さい……。」

そして、私たちの内に、私の近くに助けを必要としているのは誰でしょうか。捨てられている人、孤独な人は誰でしょうか。私の慈しみを待っている人々がいるのですが私はその人を知っていますか。「慈しみの年」を12月の8日に始めましょう！そして、生涯の終わりまでそれを終えないようにしましょう。

追加、この文章を書いた後（11月15日）に次のニュースがインターネットに掲載されました。2016年の1月には「神さまの名前は慈しみ」という教皇フランシスコのメッセージの本が出版される予定です。教会から離れている人にも、生きる意味を求めている人にも、平和と和解の道を歩みたい人にも、心の傷を癒やして貰いたい人にも……その大事なメッセージを伝えたいと思います。「神の慈しみには限りが無い」と。慈しみというたまものが私たちに無償で与えられるのは、私たちもそれを他人に与えるためです。数知れない聖人達と同じように、神の慈しみ深い心を無償で与えましょう。